



岡本眞利子
議員
(政風クラブ)

問

東日本大震災以来、防災・減災対策として特に老朽化した社会インフラの建物、道路、橋梁などの整備が進められている。現在各地で競うようにして、国の防災・安全交付金を使って地域住民の命と暮らしを守る総合的な事前防災・減災対策に取り組まれている。

国の予算では、平成25年度に1847億円、平成26年度には1兆841億円が措置されているなかで、本町として道路、橋梁の安全確保をどのような計画で取り組まれているのか伺う。

(1)緊急輸送道路の安全確保について。

①本町の緊急輸送道路の延長と代表的な路線と橋梁は。

②緊急輸送道路の管理状況は。

(2)緊急輸送道路の路面下の調査について。

①路面下空洞が原因と思われる道路陥没の有無は。

②近年における陥没の発生件数と状況は。

問 防災・減災に資する取り組みについて

答 関係機関と連携を図りながら安全確保に計画的に取り組んでいく

③緊急輸送道路の車道に埋設されている下水道管の延長は。

④本町の橋梁床版の調査実施は。

町長 ①本町の緊急輸送道路の延長は175.1キロメートルで、路線と橋梁については左表のとおりである。

道路種別	路線 (道路の延長)	橋梁
国道 (帯広・広尾自動車道、38号線、236号線など)	5路線 (36.9 km)	当縁川橋、 札内橋、 千代田大橋など 12橋
道道 (幕別大樹線、幕別帯広芽室線、生花大樹線など)	11路線 (102.6 km)	札内清柳大橋、 みずほ跨線橋、 幌内橋など 34橋
町道 (南1丁目通、幕別大通、西当北4線など)	50路線 (35.6 km)	白人橋、 吐月橋、 白銀橋など 5橋

②町道維持管理の委託業者のパトロールに加え、町職員によるパトロールなどにより道路の状況を把握し、適宜補修や改修の対応をしているが、町内の郵便局、タクシー会社などからも情報提供をお願いするなどして道路全般の状況把握に努めている。

橋梁については、橋梁長寿命化修繕計画に基づき、平成26年度から10年間で30橋の修繕を予定しており、緊急輸送道路の町道に架かる橋梁5橋のうち、3橋を修繕する計画である。

①②平成20年以降、町道は凍上の影響などによる雨水ます付近の小破的な陥没はあるものの、通行止めを伴うような道路の陥没は発生していない。

③緊急輸送道路の車道に埋設されている下水道管の延長は、幕別地区が2.3キロメートル、札内地区が7.3キロメートル、忠類地区が1.9キロメートル、合計11.5キロメートルで、下水道管全体に占める割合は約7.5%となっている。

ている。なお、本町の下水道管は、最も古いもので布設から37年を経過しているが、国で点検調査を行うとしている下水道管施設の標準耐用年数の50年を経過していないことと、これまでに路面の陥没等の事故が発生していないことなどから、管渠全体の点検調査は、実施していない。

④平成19年、21年に本町が管理する全169橋を対象に、北海道建設部の橋梁維持管理マニュアルを基に遠望目視点検を実施しているが、本年7月から5年に1回の近接目視による点検が義務付けられたことから、169橋全橋の点検が平成27年度から30年度までの間で全て終了するよう計画している。

再質問 防災・減災対策の観点からインフラ整備の重要性、かつ緊急輸送道路の安全性確保をするためには、路面下空洞調査の必要性は大きいものであると考え、優先的に調査をすべきである。

答 緊急輸送道路も当然重要になるが、第三者への被害の影響が大きい道路についても調査しなければならぬと考えており、今後検討したい。